

バラのため？

karinomaki

複数の人を好きになることの是非

吉村明美さんの、「薔薇のために」という漫画があります。この漫画を題材にして書きたいのですが、重要なのは、人は、複数の人を好きになっても許されるのかということです。私は、この問題の中でずっと揺れていたのですが、この漫画をある意味で批判的に読むことで、答えが出てくるような気がしました。この漫画は、死んだ恋人を愛し続ける男性を好きになってしまい、最終的には、その男性は、二人とも愛していいんだという答えを得て、ヒロインと結婚します。

善悪

これは、私の経験ですが、私も、複数好きな人がいます。それを、悪だとは思いませんでした。何故なら、一人は生きています。あとの二人は、歴史的偉人だからです。しかし、最初、堅かった私は、歴史的偉人二人をも愛してはいけないと思い、そのうちの一人（哲学者のイマニュエル・カント。あとの一人は作曲家のモーツァルト）にしぼっていました。まだ、存命する好きな人に出会っていないころで、私は30代でした。

善悪の区別というものは、道徳です。しかし、道徳に正解はありません。最近、自分はカントにあこがれてカントの研究から哲学を始めたのに、違う方向に行ってしまった気がしていたのですが、私が行った道は、善悪を見極める道徳哲学だったのです。ちょっと安心しました。

薔薇のため？

さて、「薔薇のため」のヒロインが焦がれる男性は、堇（スミレ）と言います。ヒロインは、「ゆり」と言い、薔薇という人間は出てきません。死んだ恋人は、「セリ」です。これは、何を意味しているのかよくわかりませんが、美しい恋物語にしてはいけない・・・という、作者の葛藤が表れているようです。だから私は、最後に「？」をつけてみました。私が問題にしたいのは、「ゆり」が、大学受験に失敗したあとの生き方なのです。ゆりは、最初、スミレを兄だと思いつつ、恋焦がれます。それは仕方がないとして、スミレや他の家族たちに引き取られたゆりは、家族以外には、何も持とうとしないのです。夢も仕事も。生きがいも。そして、ひたすらスミレへの恋心にしがみつきます。ゆりはとても心の美しい女性なのですが、意志が完全に欠落しているのです。薔薇のため？いやいや、茎のために・・・茎を伸ばしてこそその、花でしようと言いたい。

セリ

スミレのもと恋人、セリは、ガンで死にます。セリは、どんな思いでゆりとスミレを天から見ているのか。このシーンが時々出てくるのですが、セリもまた、心の美しい女性で、ゆりを好意的に見て、愛しく思っているようです。しかし、・・・考えても見てください。もし、天国がなく、向こうへ行っても、努力の世界だったなら・・・三人でうまくいってしまえば、スミレは二人の女を、お荷物にしかかんがえられなくなるのでは？見たところ、セリもまた、普通の主婦になりそうな人なので言ってみました。

努力の世界

私は、天国はなく、向こうの世界も、努力の世界だと思っています。伸び続ける人だけが永遠なのです。それなら、この世に生まれる意味は？ 出会うため、そして、もっと大切なのが、やりたいことを見つけるためなのです。

話は変わりますが、私は、アムウェイという会社が嫌いです。あれは、一種の宗教組織だと思っています。自分のところの製品だけが特別と、くちコミで伝えまくり、勧誘する・・・全く間違った組織です。こういう、間違った道に入らずに、正しく真っ直ぐな、やりたいことというものを見つけ、それが天職である人こそ、永遠の人です。永遠の愛・・・それが、もし、一つだけだったならば、どうなるでしょうか。

伴侶

一人の伴侶を見つけると、もうそこで、人は満足が満たされてしまいます。ことに妻は、夫に尽くすだけの存在になってしまい、夫が不倫をすともうたいへんです。妻の心は荒れ、修復不能です。一人の伴侶しか持たないことは、生きがい、やりがいを人から奪うのです。

もし、結婚してしまっていた、もう妻を裏切れない、そして毎日がつまらないのなら、心の恋だけでもすればいいと思うのです。心の恋さえ許さない、私を隣に住めなくしたある奥さんを、私は知っていますが・・・。

再び、薔薇のために？

ゆりは、スミレに失恋したとき、思います。「何から始めよう・・・。」

「受験しろよ、バカ。」と私は心の中で言いました。

「受験はもうやだしなあ」と、ゆりは思って、新しい家族の家に行くのです。そこでスミレと出会うわけですが。

私は過酷な人生を生きてきました。そして、カントの哲学とモーツァルトのピアノに出会いました。今は、私は自分の道を行っています。しかし、一度も、自分は恋愛だけをしていればいいとは思いませんでした。精神病になり、悪化したときに主治医の先生と出会い、愛するようになりましたが、哲学をしすぎたことが、病気を悪化させたのかもしれない。しかし、そのおかげで人生最大の、生きている人への愛を得た。この人生は、苦しかったけれど、自分のやるべきことから目をそむけなかったからだったと思っています。最後にゆりは、スミレと結婚して幸せになりますが、スミレ、セリ、ゆり、三人とも、永遠の愛を知らないような気がしてなりません。スミレは小説家になりますが、本当に愛する女性は、やりたいことを持っている、強い女性、守らなくても生きていける女性であってほしいものです。

参考文献

「薔薇のために」

吉村明美